

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 ：地域高規格道路 中津日田道路 一般国道212号 三光本耶馬溪道路	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 九州地方整備局
起終点 起点：大分県中津市三光西 萩 終点：大分県中津市本耶馬溪町 落合	延長 12.8km	
事業概要 国道212号三光本耶馬溪道路は、地域高規格道路である中津日田道路の一部を担う延長12.8kmの道路であり、地域産業（自動車関連産業や観光産業）を支援するとともに、沿線地域の生活を支え、安全・安心の向上に寄与するものである。		
H19年度事業化		H - 年度都市計画決定
H22年度用地着手		H - 年度工事着手
全体事業費	約426億円	事業進捗率
3%		供用済延長
- km		
計画交通量		
11,400～13,200台/日		
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 289/312億円 (事業費：280/303億円) (維持管理費：8.9/8.9億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 404/404億円 (走行時間短縮便益：288/288億円) (走行経費減少便益：71/71億円) (交通事故減少便益：45/45億円)
基準年 ：平成22年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C= 1.6 (交通量 +10%) B/C= 1.2 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C= 1.3 (事業費 +10%) B/C= 1.5 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C= 1.3 (事業期間+20%) B/C= 1.5 (事業期間-20%)		
事業の効果等 物流の効率化 ・自動車関連産業の活性化 ・信頼性の向上による自動車部品輸送の運行計画時間の短縮 (中津日田道路が全線整備された場合：所要時間約9分短縮、余裕時間約3分短縮) ・港湾物流の促進(中津港～日田IC間の所要時間短縮：約2分短縮) ・農畜産品の市場拡大 広域観光の振興支援 ・紅葉時の休日の交通混雑緩和に伴う交通円滑化の便益【約4億円】 ・耶馬溪・本耶馬溪地域(観光客数約190万人/年)と北九州、別府、阿蘇くじゅう地域との広域観光を支援 地域医療活動の支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口(約12分、約0.6万人) ・救急医療活動のアクセス向上による便益【約12億円】 災害に強い道路ネットワークの構築 ・災害による現道の通行規制(全面通行止め2回、交互通行規制3回)を回避する代替路の確保 交通安全性の向上 ・死傷事故率の低下(38.1件/億台和 13.4件/億台和) ・国道212号及び国道500号の交通事故件数の削減(29件/年 3件/年) は、供用後50年間の便益額として試算した値(参考値)		
関係する地方公共団体等の意見 中津市、日田市、宇佐市の3市の首長・議会議長で構成される中津日田間地域高規格道路促進期成会(会長：中津市長)等より早期整備の要望を受けている。(平成22年8月)		
県知事の意見 ： (事業継続という対応方針(原案)に対し)異存はありません。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

中津市の製造品出荷額は、大手自動車生産メーカーの操業開始に伴い右肩上がりで大きく伸びており、事業採択時以降も約11%増加している。

また、既に中津日田道路の一部区間である中津道路、中津港線が供用（H21.3.20）しており、隣接する関連事業の東九州自動車道、中津三光道路、本耶馬溪耶馬溪道路等の整備も着実に進められている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約3%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、引き続き調査設計の実施と用地買収着手に向け、事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

・新技術・新工法の積極的活用等により、着実なコスト縮減

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。